

令和5年度（2023年度）八王子市保健所運営会議 議事概要

1 日時 令和6年（2024年）2月8日（木） 午前10時00分～午前11時30分

2 場所 八王子市保健所 4階 401会議室

3 参加者名簿

	氏名	所属・役職
1	星野 直美	市議会議員
2	小林 裕恵	市議会議員
3	富永 純子	市議会議員
4	山本 貴士	市議会議員
5	長谷川 順子	市議会議員
6	吉田 明博	八王子市医師会 副会長
7	山内 英史	東京都八南歯科医師会 理事
8	森田 二三江	八王子薬剤師会 副会長
9	上條 圭司	東京都獣医師会八王子支部 支部長
10	小井戸 浩子	東京都助産師会八南分会 会長
11	武内 和子	わかくさ家族の会 理事
12	峯尾 誠	東京都八王子食品衛生協会 会長
13	赤澤 将	八王子市社会福祉協議会 会長

4 議事

- (1) 八王子市健康医療計画について
- (2) 第2期八王子市自殺対策計画について
- (3) 動物愛護に関する取組みについて
- (4) その他

【質疑応答】

(1) 八王子市健康医療計画について

質問 1	<p>資料 1 (P7)の「地域とつながる健康づくり」について、働き盛り世代を対象としたアプローチの中で職域と地域の連携を目指しているとありますが、健康経営に対する支援をどのくらい考えていますでしょうか。</p> <p>自治体によっては独自の健康経営の支援を行っているところもありますが、八王子市独自の健康経営のための支援はありますか。</p> <p>中小零細企業は、社長の意識改革をしてもらわないと、社員がなかなか報われないため、社長が意識変革を行い健康経営に取り組むことができれば、生産性や企業価値も向上します。</p>
回答 1	<p>社員の健康が会社の発展につながり、生産性の向上になることを企業の方や、経営層の方に伝えていき、社員の方には、健康の大切さを伝えたり、健康相談を受けたりすることも進めていきたいと考えています。市独自の支援や表彰制度について検討中ですが、現時点では具体的に進められてはいません。今後、企業と連携しながら、いただいたご意見を参考にして考えていきます。</p>
意見 1	<p>商工会議所なども連携して進めていけるといいと思います。</p>
補足 1	<p>企業に対して保健所からのアプローチとしては、100食以上提供している企業の社員食堂には、食の安全はもちろんのこと、バランスのとれた食事についての情報提供を食品衛生担当の栄養士が行っています。将来的に八王子市として健康企業の認証制度などを作り、企業との連携を積極的に行っていきたいと考えています。</p>

(2) 第 2 期八王子市自殺対策計画について

質問 2	<p>資料 2 (P5)から、高齢者の自殺率が高いと感じます。実際に訪問診療をしている中で、思うようにいかなくて心中してしまうことや、介護していた方が精神を病んでしまい親子共々自殺に至ったケースなどがありました。出かけることができる方は、シルバーフラットなどへ相談できますが、介護をしている方や引きこもってしまっていて外出が難しい方は、シルバーフラットなどに相談ができないと思いますが、そのような方へはどのような取り組みをされていますか。</p>
回答 2	<p>具体的な取り組みは行っていませんが、周りにいる方が変化に気づいてあげられることが理想です。八王子市としては、今回紹介した相談窓口以外にもたくさんの相談機関を紹介しています。ゲートキーパーの育成として出前講座を開催しているほか、市の職員向けには e ラーニング研修を行い周りの方の変化への気づきや対応を周知しています。</p>
補足 2	<p>外出が難しい方への取り組みについては、高齢者福祉課など関係所管と相談して進めていきたいと考えています。</p>

質問 3	<p>コロナ渦で社会的弱者の方が自殺されていることが社会的にも問題になったかと思います。自殺に追い込まれている方は1つの要因ではなく、複数の要因が重なって自殺に至ってしまう傾向が多いと思います。当事者の方が辛い思いをしていることに自覚がなくなっていると思うので自身の心の健康状態をより早く知ることが大事だと思います。八王子市の取り組みの中に、「心の体温計」というものがありまして、私自身も試してみたことがあります。自身の健康状態を客観的に把握できるツールとなっていてとても大事だと思います。「心の体温計」や自身の健康状態を知る手段をどのように発信していますか。</p>
------	--

回答 3	市のホームページで相談先を公開して案内しています。ただ、アンケート結果から認知度が上がっていないことは承知していて、課題であると感じています。今後は周知に力をいれていきたいです。また、検索ワードから関連した連動広告が出てきますので、そちらから相談できればいいと思っています。辛い思いを自覚できていない方へは、なかなか難しい状況ではありますが、ゲートキーパーや周りの方を通じて相談先が伝わればいいと思っています。
------	---

質問 4	昨年の運営会議でも要望しました、LINE を活用しての案内や相談は難しかったのでしょうか。その代わりに今回の働き盛り世代への対応としてインターネット連動広告からはじめたということでしょうか。
------	---

回答 4	追いつかれてしまっている方に手を差し伸べようと、オートマッチな形ではありますが、検索連動広告を始めました。IT 時代にあったアイデアとなります。SNS の活用については効率的な問題やさまざまな難しさがあり現段階では行っていません。
------	---

意見 4	悩みを抱えている方が電話相談をすることは難しく、誰かに相談するまでのハードルは高いと思います。そのため、相談先に導かれるような対策をしていただきたいです。他自治体では SNS を活用されているところもありますので、積極的にご検討をお願いします。
------	--

補足 4	「心の体温計」とは、携帯電話やパソコンを利用して、自身の健康状態を回答すると視覚的に自身の心の健康状態がわかるようになっています。カードの裏面に説明が書いてあります。自身の気持ちが変わる時にやっていただくと、その時の気持ちにあわせて変化していきます。実際に「心の体温計」を使っていたらいいとのことでうれしく思います。こちらは、多くの自治体でやっています。アクセス数や地域はわかるのですが、同じ方が何回もアクセスしている場合もありますので何名の方がアクセスしているかは把握できていません。視覚的にわかりやすい方が、若年層には伝わりやすいかと思います。本市は、連動広告からはじめていまして、SNS や LINE での相談は発展できていません。今後も若年層を中心に対策を考えていきたいと思います。学校ではお子さんに一人 1 台タブレット配布しているところもありますので、匿名で学校カウンセラーとつながることができるような取り組みをはじめています。悩みに気づくことが大事ですが、悩みを抱えている方に届きやすいような情報を発信ができるといいと思います。
------	---

意見 5	資料 2 より全国で自殺者が 2 万 1 千人程いる中で、高校生が 600 人程度いるかと思います。小学生よりも中学生、中学生よりも高校生の自殺の割合が高いかと思います。自殺に至ってしまう方は、1 つの悩みではなく複数の悩みがある場合が多いと思います。先ほどの説明にあったように、3 万人悩みを抱えている方がいますが、実際に相談した方は 3 千人とあったように、相談できる方は自殺に至ることは少ないのではないかと思います。相談する場所はあるが、どのようにしたら相談できるかわからない方がいると思います。若年層では、相談先にたどり着ける教育や環境を作って相談できるようにすることが大事であると思います。親や学校、SNS などどこかに相談できる環境を作ってあげることが大事であると思います。若年層の自殺対策に力を入れるのであれば、20 代未満の個々の様々な悩みをどう聞き分けられるかが大事だと思います。相談ができれば自殺は防げると思うので、相談できるまでの仕組みを市で出来ればと思います。
------	--

質問 6	資料 2 (P5) の年代別自殺者数割合の比較について、八王子市は、全国や東京都と比較しても 20 歳未満の割合が多いかと思います。20 歳未満の自殺者の割合が多い原因はありますか。もし原因があるのであれば対策をしていますか。
------	---

回答 6	八王子市の自殺者数のデータをのせていますが、元データは厚生労働省からのもので、年代別はわかりますが属性までは把握できていないです。本市は、学校が多いので、学生ではないかと推測しています。コロナ渦もありストレスフルな時間を過ごしていたかと思います。このような方へのアプローチは、大学と連携をとっていくことが本市のできることでと思います。
補足 6	本市の大学に通う大学生が全員八王子市に住民登録をしているわけではないので、本当の数は把握できていないため、この結果よりも、もしかしたら多い可能性もあります。

質問 7	芸能人の自殺があると、テレビで「いのちの電話」の案内がでると思います。相談ができる方は、自殺をしないと思います。若者はテレビ離れをしていることもあり SNS でのほたらきかけは有効であると思います。子どもの変化に親や周りの方が気づくことができればいいですが、なかなか気づくことが難しい場合もあると思うので SNS は有効であると思います。
回答 7	最近の若い方は、電話をかけたことがなく小学生たちは LINE で情報交換をしているとのことです。電話相談の番号が出ていても、あまり役に立たないとのことです。また、近年の研究では4つの要因が重なると自殺に至ってしまう傾向があるとのことです。複雑で複合的な問題であると感じています。

質問 8	子どものしあわせ課主幹で市内全中学校へ「あかちゃんふれあい事業」を行っています。助産師として命の大切さを伝えることを主幹としてやっていて、自分の命を大切にすることなどを伝えていきます。相談先として、若者相談センターなどの連絡先をチラシに載せたいと提案しましたが進まなかったことがありました。市主幹で行っている事業ですので、若者相談センターなど関係所管と共同して進めていけばいいと思います。わたしたちが行う授業では、学校に来れないお子さんには会うことは出来ず、相談先や伝えたいことを伝えることができないので、学校に来ている子に命の大切さを伝えていけば、将来的に生きやすい社会をつくれるのではないかと思います。
回答 8	所管課にしっかりと伝えたいと思います。

(3) 動物愛護に関する取組みについて【資料 3】

質問 9	別紙「そなえて安心メモ ペットと暮らすシニア世代と関わる福祉関係者の皆様へ」のチラシはどちらへ配られて、どのように管理されているのでしょうか。
回答 9	資料 3 (P5)に記載したよう、ご協力頂いている福祉部門へ配布しています。管理に関しては、ペットを飼育されている高齢者の方自身に記載して頂き、個人で管理していただいています。
意見 9	ご協力頂いている福祉部門から配られていない方も多くいらっしゃると思いますので獣医師会から、各動物病院へ協力して頂いて、多くの飼い主さんに配布できればと思います。高齢者の方は特にペットを飼うことで癒しを貰ったり、孤独死を防ぐことができると考えられています。
回答 9	こちらのチラシも広く周知していきたいと考えていますので、ご協力いただければと思います。
意見 9	R4 年度にこちらのチラシができたことを知らなかったです。飼い主が亡くなられて、近所の方が代わりにペットを連れてきて病院で引き取ることもありました。チラシの配布など、ご協力できるところはあると思います。

質問 10	災害時のペットへの対応は、どのようになっていますか。災害関連死の対応は、どのように考えていますか。
回答 10	原則同行避難としています。動物アレルギーをもっている方もいますので、避難所で人と動物は別になります。餌や必要物品は飼い主さんで用意してもらうことになっています。獣医師会と災害協定を締結してまして、怪我をしてしまったペットがいたら獣医師会にお願いしています。
補足 10	年 1 回動物愛護推進協議会を開催していますが、今年度災害時のペット対応がテーマになりましたので、災害時の協定を結ばせていただいたところです。被災地では、ケージに入れて飼い主さんの責任のもと飼育していただきます。場合によっては周りの方みんなで育てていくようになります。
補足 10	「地域防災計画」という市の計画に基づき、災害関連死を防ぐため、早めに保健師等で被災者の健康観察をするものとなっています。医師会、薬剤師会などとも協力して活動をしていきます。現在も、能登半島へ災害派遣に行っていますが、動かないことによる生活不活病や健康状態の悪化を防ぐことが急性期の課題となっています。福祉関係者やリハビリチームと活動していく流れになると思います。

質問 11	ここ数年で動物に対する行政が進んだ印象を受けました。動物に関しては、環境問題に発展したことや、最近ではペット飼育が人の問題にも発展している状況があると思います。ペット飼育は終生にわたって行う責任があると思います。こちらの資料には記載がありませんでしたが、生活保護を受給されている方もペットを飼っていて、去勢手術ができていないために多頭飼育がおきてしまう問題があります。保健所だけでなく、市役所の高齢者部門や生活保護担当などと連携して施策を行わなければならないと思いますが、どのようになっていますでしょうか。
回答 11	高齢者関係は、先ほどお伝えしました資料のご協力頂いている福祉部署と連携しています。生活保護の方についても関係部署と少しずつ話しているところでもあります。動物は終生飼養となっていますので、情報が入ると対応もできるのですが、情報が入らない場合には難しいことも多いです。福祉部とも連携をして少しずつ進めていきたいです。
意見 11	多頭飼育や、高齢の飼い主が入院をして飼育が困難になる時は、ボランティア団体の活躍が大きいです。ボランティア団体との協力推進制度もあるということなのでボランティア団体と連携して情報連携や支援を検討してほしいです。
補足 11	年に 2 回行っている動物愛護推進協議会ですが、ボランティア団体の方も入っていただいて、具体的な活動についての要望を頂いています。できる事から進めていきたいです。

(4) その他全体について意見

意見 12	若年層の自殺率が高いので、SNS を活用してほしいです。自殺対策の動画についても、自殺対策月間だけでなく、継続的に流して日常的に目に付く形にしておく方が良いと感じました。 動物愛護に関しても、中核市としてできる事はたくさんあると思います。
-------	--

意見 12	身近で自殺がおきてしまったこともあり、どのように対策をしていくかが大事であると感じています。
-------	--

意見 12	資料 1 の健康医療計画についてですが、企業と連携して働き盛りの方を対象とした職域連携のお話がありましたが、私の住んでいる由木地区では 7 割の方が都心に働きに出ているという調査
-------	---

	<p>結果がありました。八王子市民の方の健康を守っていくのは大事なのですが、市外に出ている方へのアプローチも計画の中に入れていただけたらありがたいです。</p> <p>資料2の自殺対策についてですが、SNS やインターネットを使った成果はあると思います。自殺をしたいと思っている方は、傷の深さが浅いうちに対処することが大事であると思うので気軽に相談できるような方法があればいいと思います。傷が浅いうちに、また、困難が多くならないうちに早い段階で対処できるように、地域事業に入れていただきたいです。</p> <p>資料3の動物愛護についてですが、動物の飼育に責任を伴うことは当たり前のことですが、動物の飼育は、セラピー要素もあり介護の中でも重要視されています。今回の資料は、飼育する際、この先自身が病気になって飼育できなくなってしまった時の内容が多いですが、ペットを飼うことの喜びや責任を伝えていってほしいです。</p>
--	---

意見 13	<p>自殺対策について中学校での対策はあまりないと感じたのですが、一般薬品を摂取しすぎる「オーバードーズ」も問題になっています。学校薬剤師として、薬物乱用防止を伝えています。大麻や覚せい剤だけでなく一般薬品を多量に接種することは薬物乱用にもなりますので、それも含めて伝えています。オーバードーズの背景には、単に好奇心だけではなく、精神的な問題や気持ちを安定させたいなどがあると思います。小児科で精神疾患を診てくれるところが少ない現状もあります。自殺対策の焦点を小中学生に当ててほしいです。学校を周っていますので周知に協力することができます。</p>
-------	--